

景気動向調査

「(山形・秋田)県内企業の景気動向調査」(概要)

1 調査の目的

山形・秋田県内に本社を置く法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しについて調査を行い、景気の動向を把握することを目的とする。

2 調査の方法

すべての質問事項についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は「自社の業況DI値」= (「良い」と回答した企業の割合) - (「悪い」と回答した企業の割合)

3 調査期間

平成24年5月7日(月)~17日(木)

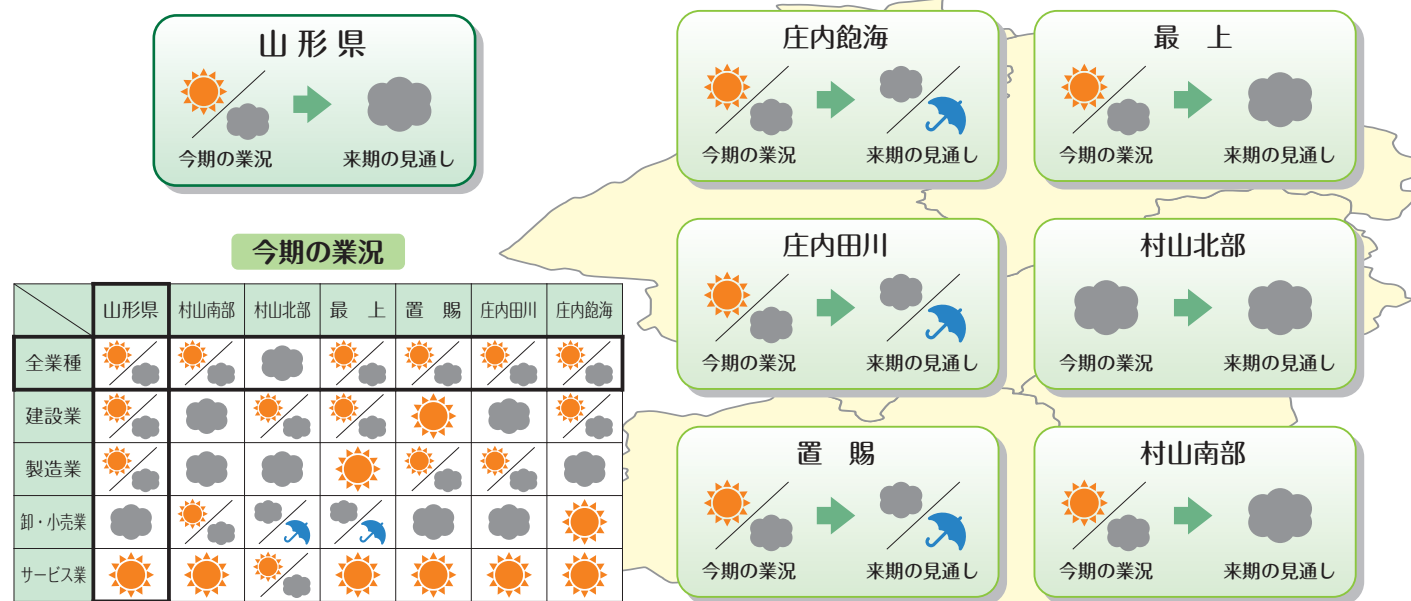
4 サンプル概要

アンケート対象企業 山形755社、秋田584社
有効回答数 山形505社、秋田442社
回答率 山形66.9%、秋田75.7%

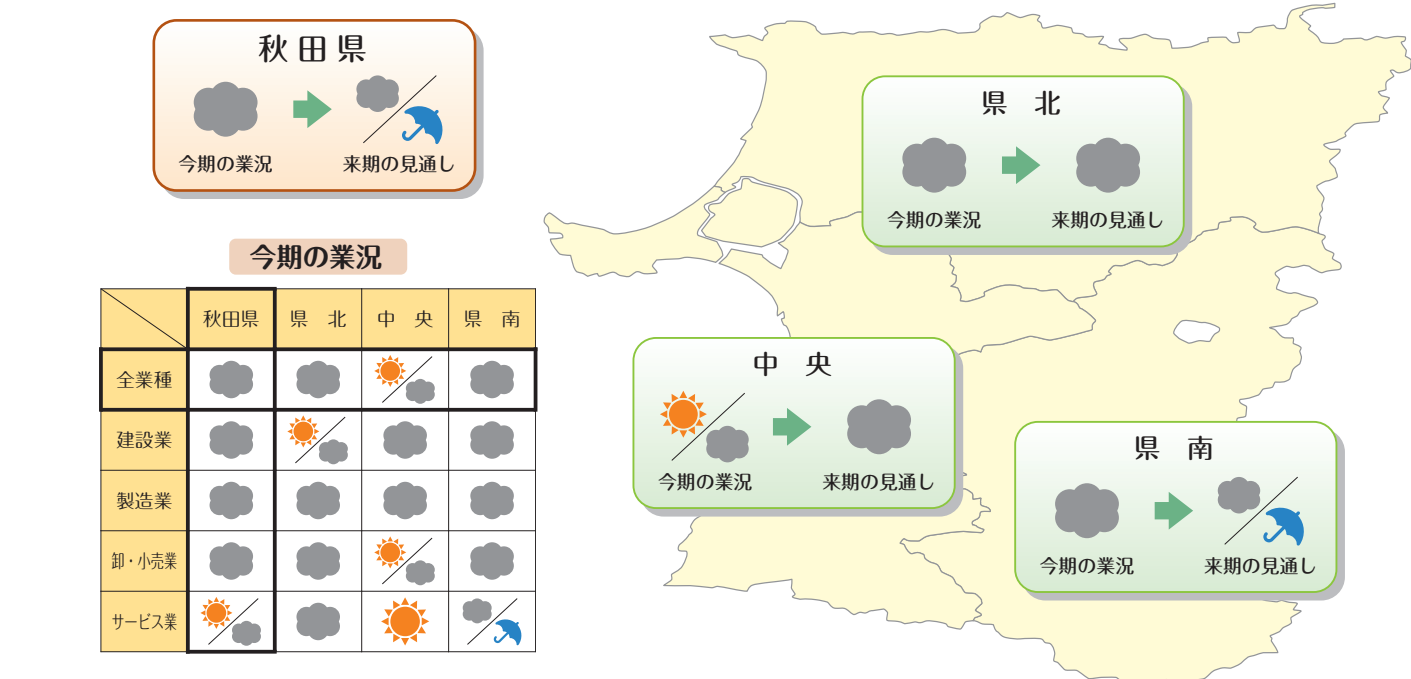
特に好調 DI≥30	好調 30>DI≥10	まあまあ 10>DI≥10	不振 ▲10>DI≥▲30	きわめて不振 ▲30>DI

景気天気図

第31回「山形県内企業の景気動向調査」



第4回「秋田県内企業の景気動向調査」

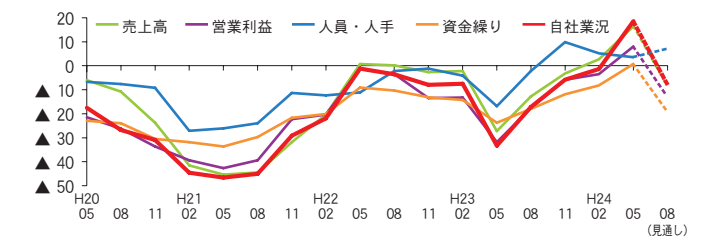


▶ 自社業況の動向

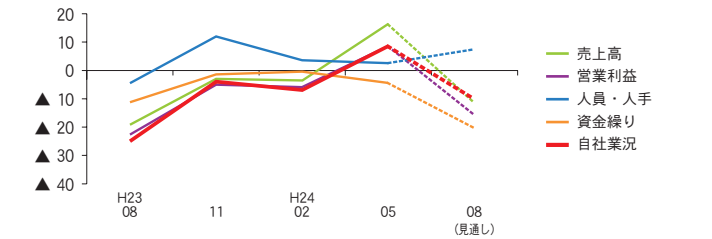
山形県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」でみて、16.6(前回調査比17.8ポイント上昇)となり、前年同期は東日本大震災の影響により業績が悪化していた企業が多かったことなどから、DI値が当社の調査(平成16年11月から開始)史上最高値となった。先行き見通しは、▲8.1(今回調査比24.7ポイント下落)と、一転して大幅に悪化する見込みとなっている。

秋田県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」でみて、前年同期において東日本大震災の影響で大幅に業績を落とした企業が多かったこともあり、8.6(前回調査比15.6ポイント上昇)と「良い」超に転じ、昨年8月の調査開始以来初のプラスとなった。先行き見通しは、▲10.2(今回調査比18.8ポイント下落)と、一転して悪化する見込みとなっている。

図表1 山形「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表2 秋田「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

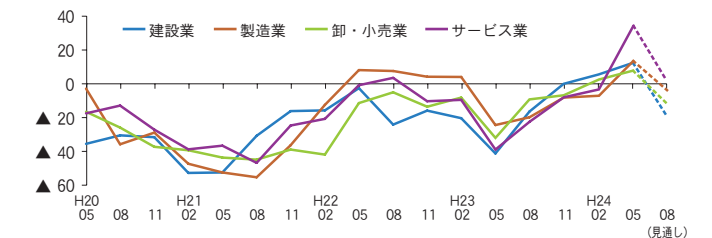


▶ 業種別の動向

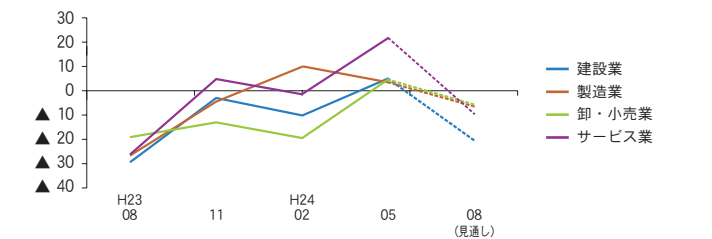
山形県の業況を業種別にみると、すべての業種においてDI値がプラスとなり、大幅な回復が見られた。特にサービス業の回復度合いが高く、この要因として飲食業や宿泊業など対個人向けサービス業の業況回復などが考えられる。先行き見通しは、全業種で下落の見通しとなっており、特に建設業やサービス業の悪化幅が大きい。

秋田県の業況を業種別にみると、「自社の業況DI値(前年同期比)」が建設業、卸・小売業、サービス業でいずれもDI値がプラスに転じ、昨年8月の調査開始以来初めてすべての業種においてプラスとなった。但し、製造業のDI値はプラスながら前回調査比で3.4ポイント下落した。先行き見通しは全業種で悪化の見通しとなっており、特に建設業やサービス業において悪化幅が大きくなっている。

図表3 山形・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表4 秋田・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

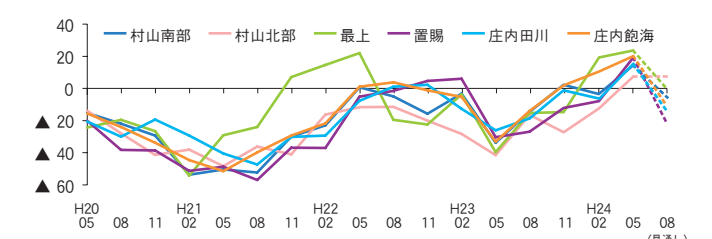


▶ 地域別の動向

山形県の業況を地域別にみると、村山南部で14.7(前回調査比18.4ポイント上昇)、村山北部で7.2(同19.8ポイント上昇)、最上で23.5(同4.3ポイント上昇)、置賜で19.1(同27.0ポイント上昇)、庄内田川で15.6(同21.9ポイント上昇)、庄内飽海で21.4(同10.9ポイント上昇)となり、すべての地域で回復している結果となった。先行き見通しは、村山北部を除く地域で悪化の見込みとなっている。

秋田県の業況を地域別にみると、県北で5.3(前回調査比23.7ポイント上昇)、中央で15.6(同16.7ポイント上昇)と「良い」超に転じ、県南では▲3.3(同9.7ポイント上昇)と依然「悪い」超ながら前回調査に比べてマイナス幅が縮小しており、いずれの地域にも回復の動きが見られた。先行き見通しは、県北で▲9.3(今回調査比14.6ポイント下落)、中央で▲6.5(同22.1ポイント下落)、県南で▲18.0(同14.7ポイント下落)といずれも「悪い」超となり、各地域とも悪化の見込みとなっている。

図表5 山形・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表6 秋田・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

